

平成 21 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2006～2008  
 課題番号：18530683  
 研究課題名（和文） ニュージーランドと日本の社会科における「基礎・基本」に関する比較研究  
 研究課題名（英文） Research on the Difference of Social Studies Skill between Japan and New Zealand  
 研究代表者  
 井田 仁康（IDA YOSHIYASU）  
 筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授  
 研究者番号：20203086

## 研究成果の概要：

日本とニュージーランドでの社会科における「基礎・基本」は、日本が個別知識における「基礎・基本」を強く打ち出しているのに対して、ニュージーランドはスキルの「基礎・基本」を主としている。スキルを強めることは、応用力や思考力を高めることにもなる。国際地理オリンピックの出題にもその傾向がみられる。日本でも、個別知識より概念知識を「基礎・基本」とすることで、スキルをも取り入れた、日本の知識重視の「基礎・基本」が無理なく改善できることを提言した。

## 交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,400,000	0	1,400,000
2007年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,600,000	660,000	4,260,000

## 研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育

キーワード：社会科、地理教育、ニュージーランド、日本、基礎・基本

## 1. 研究開始当初の背景

研究開始当初は、学力問題の低下が指摘され、「基礎・基本」が見直されはじめていた。他方で、社会科における「基礎・基本」は曖昧のままであった。そのような状況にあって、なぜ日本の社会科の「基礎・基本」が曖昧なのかの要因を追究し、日本の社会科の「基礎・基本」はどうあるべきかの指針を示すこ

とは急務であった。

## 2. 研究の目的

そうした中で、ニュージーランドでは「基礎・基本」をスキルの観点から整理し、カリキュラムに提示してきた。そこで、本研究の目的は、ニュージーランドと日本の社会科の「基礎・基本」を比較し、それを踏まえて日

本の社会科に「基礎・基本」を提言していくこととした。

### 3. 研究の方法

日本の社会科で考えられている「基礎・基本」を文献で整理し、ニュージーランドでの「基礎・基本」については現地で資料を収集するとともに、学校の実践レベルでの指導案や教師への聞き取り調査で資料を収集する。さらに、それらの資料を整理しその成果を国内だけでなく、国際学会で発表することにより、議論を尽くすことで、日本の社会科の「基礎・基本」の基盤を明確化していくとともに、国際スタンダードを考慮した社会の「基礎・基本」の構造化にせまっていく。

### 4. 研究成果

日本では、知識注入の授業の脱却から「学び方を学ぶ」学習へと転換した。しかし、近年それは学力の低下を招くとして批判され、知識の「基礎・基本」を充実させる方向へと再転換した。しかしながら、「基礎・基本」は知識に限った「基礎・基本」だけではない。社会科にとっての学力とは、4つの基礎(基本)の統合であるといえる。4つの基礎とは、知識、スキル、考察の観点、学習のプロセスである。知識は社会事象に関する知識をさし、スキルは、調査、コミュニケーション、問題解決などの能力である。考察の観点とは、地理的内容でいえば位置関係、場所の特性といった地域を分析する視点や分布の把握、その要因の考察、他地域との比較といった分析のプロセスである。学習のプロセスは、課題把握、資料の収集、整理、分析・解釈、判断・意思決定、参加といった一連の作業である。それら4つの基礎を統合してこそ社会科の学力であるといえる。このような「基礎・基本」に基づいて、多様な価値観を認め、様々

な価値観をどのように認め合うかを学習する。そのため、基礎となる知識は当然のこと必要であるが、その基礎的な知識をどのように駆使し、価値判断および意思決定していくのが学習の鍵となる。

平成20年度に公示された新学習指導要領の地理的分野においては、地理的見方・考え方、地理的スキル、地域調査の重視は継続されているが、地域調査の結果については、自分の解釈を加え、意見交換するなどのコミュニケーション能力の育成が強調されていることが方法的側面でのポイントとしてあげられよう。地理学習においても、自分の解釈を述べたり意見交換したりして、自分はどのように立ち向かえばいいのだろうと考えること、換言すれば地域の課題をとらえ、それを分析し、議論し、価値判断、意思決定、参画する態度を養うことが重視されている。

本報告では、社会科特に地理的分野を中心としながら、「基礎・基本」を検討し、日本とは異なるスタンスの「基礎・基本」をもつニュージーランドの社会科を比較しながら、社会における「基礎・基本」の概念を明らかにし、それを推進させる方策までを追究しようとした。

本研究の成果は、本報告書とともに、多くの論文としてまとめることもできた。さらに、国際大会で研究発表することにより、国際的な観点から議論を深めることができた。これは、本科学研究費による最大の進歩である。日本の地理教育は、以前は十分位世界に発信することがなかったが、この科学研究費を得ることにより、世界へ日本の地理教育が発信できたといえる。そして、研究を進めるにつれ、さらなる研究課題が生じ、今後ともさらなる研究が必要である。本研究の結論としては、「基礎・基本」を単に個別知識として捉えるのではなく、スキルや概念的知識から

捉えていくとが必要とされるというものである。このような「基礎・基本」は、ニュージーランドでも力を入れている国際地理オリンピックでも活用され、国際的スタンダードとなっている。日本における社会科、特に地理教育での「基礎・基本」を明示できたと考える。また、本研究の成果を活用した学会が主催する教師のための講習会や、日本の高校生が国際地理オリンピックに参加する下地ともなった。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 12 件)

井田仁康(2008): 日本の国際地理オリンピック参加までの道のりと成果. 学術の動向、13-11, pp.94-97. 査読無し

井田仁康(2008): 踏み込めない段階的に示される能力(スキル)目標. 社会科教育、No.596, pp.14-15. 査読無し

井田仁康(2008): 地図・地球儀を活用する学習と体験. 教職研修、37-3, pp.56-59. 査読無し

IDA, Y.(2008): The substantiality of training system to teach geography. 台湾地理教育回顧と展望論文集(第12回台湾地理国際学術研究大会)、pp.A2-3-1~3-6. 査読無し

IDA, Y.(2008): Geography Instruction and curriculum development. 台湾地理教育回顧と展望論文集(第12回台湾地理国際学術研究大会)、pp. 専 3-1~3-8. 査読無し

井田仁康(2008): 地理的技能による一貫カリキュラム. 山口幸男他編『地理教育カリキュラムの創造』古今書院,

pp.109-115. 査読無し

井田仁康(2007): 身近な地域調べ~地域の特徴を見いだす方法~. 朝倉啓爾他編『中学社会をよりよく理解する』日本文教出版、pp.131-136. 査読無し

佐藤公(2007): 社会科教育におけるメディアリテラシー像 - 情報社会を主体的に構成する資質育成のために -. 社会科教育研究、第 101 号、pp.49-60. 査読あり

井田仁康(2007): 文学作品と地形図を用いた地理教育 - 『二十四の瞳』と5万分の1地形図 -. 大嶽幸彦先生退職記念事業会編『地域と地理教育』協同出版、pp.52-65. 査読無し

井田仁康(2007): 現代世界の地域構造と世界像. 矢ヶ崎典隆他編『地理学基礎シリーズ3 地誌学概論』朝倉書店、pp. 22-30. 査読無し

IDA, Y. and MIYAZAKI, S. (2007): Complexities of environmental education and the role of teaching geography about sustainable development of Japan. *Geographiedidaktische Forschungen*, Vol.42, pp.199-202. 査読あり

IDA, Y.(2006): The meaning of geography education using GIS in Japanese junior high school. Purnell, K. et al, eds, *Changes in geographical education: Past, present and future*, proceedings of the International Geographical Union Commission on Geographical Education Symposium, pp.217-220. 査読あり

[学会発表](計 11 件)

IDA, Y.: The substantiality of

training system to teach geography.  
第 12 回台湾地理国際学術研究大会、  
国立台湾師範大学、2008 年 11 月 8 日  
IDA, Y.: Geography Instruction and  
curriculum development.  
第 12 回台湾地理国際学術研究大会、国  
立台湾師範大学、2008 年 11 月 8 日  
IDA, Y.: The geography  
recognition of high school students  
and new national curriculum in Japan.  
31st International Geographical  
Congress, Kram Exhibition Centre,  
Tunis, Tunisia、2008 年 8 月 14 日  
井田仁康: 国際地理オリンピックの参  
加・実施へ向けての課題。  
日本地理教育学会 2 月例会, 日本女子大  
学目白キャンパス、2008 年 2 月 16 日  
IDA, Y. and MIYAZAKI, S.: Difficult of  
environmental education and the issue  
toward sustainable development of  
Japan. International Geographical  
Union Commission on Geographical  
Education 2007 Regional  
Symposium-Lucerne Switzerland,  
Teaching training.  
University of Central Switzerland  
Lucerne、2007 年 8 月 14 日  
IDA, Y.: Geography Education in Japan.  
教育部地理学科中心定期進修研習, 国立科  
学実験中学, (台湾新竹市) 2007 年 7 月  
25 日  
井田仁康: 授業力を高める教職教育の未来  
を探る - 大学での教科教育を指導する立  
場から - .  
筑波大学教育学会第 6 回大会, 筑波大学附  
属駒場中高等学校、2007 年 3 月 18 日  
IDA, Y.: The comparison of education for  
developing identity in Nunavut and

Okinawa. Japan Studies Association  
of Canada 2006 Conference,  
Thompson Rivers University(Kamloops,  
Canada) 2006 年 11 月 20 日  
井田仁康: 地理教育の展望と課題 - 環境  
教育と関わらせて - .  
日本地理学会 2006 年秋季学術大会, 静  
岡大学、2006 年 10 月 24 日  
IDA, Y.: The meaning of geography  
education using GIS in Japanese  
junior high school. International  
Geographical Union Commission on  
Geographical Education Symposium,  
Queensland.  
University of Technology(Brisbane,  
Australia)、2006 年 6 月 30 日  
井田仁康: 地理的技能の獲得を軸にした  
地理教育カリキュラムのあり方. 地理教  
育全国合同シンポジウム, 慶應義塾大、  
2006 年 6 月 25 日

[ 図書 ] ( 計 2 件 )

江口勇治・渥美利文(2008):  
『法教育 Q & A ワーク 中学校編』明治図  
書, 99 頁  
江口勇治・磯山恭子編(2008): 『小学校  
の法教育を創る - 法・ルール・きまりを学ぶ  
- 』東洋館出版社、290 頁

[ その他 ] ( 計 1 件 )

井田仁康編 (2009): 『ニュージーランドと日  
本の社会科における「基礎・基本」に関す  
る比較研究 平成 18~20 年度科学研究費  
補助金 (C) 課題番号 18530683 研究成  
果報告書』、64 頁

6 . 研究組織

(1)研究代表者

井田 仁康 ( IDA YOSHIYASU )

筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授

研究者番号：20203086

(2)研究分担者

江口 勇治 ( EGUCHI YUJI )

筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授

研究者番号：50151973

(3)連携研究者

佐藤 公 ( SATO KO )

武蔵野大学・文学部・准教授

研究者番号：90323229